



環境リスクPress

2022年5月発行 / VOL.37

アスベスト関連ニュース

工事現場でエレベーター落下 50代男性作業員が死亡(2022/5)

5月6日、東京都台東区寿のビル解体工事現場にて、地下1階でエレベーターの天井の上に乗り、壁に含まれたアスベスト(石綿)の除去作業をしていた男性が、地下2階に落下、病院に搬送されたが1時間後に死亡が確認された。作業中に誤ってエレベーターをつるすワイヤを切断した可能性がある。尚、解体工事現場では9人が作業していたが、エレベーターでの作業は男性が1人で行っていた

神戸市営住宅解体のアスベスト確認漏れによる費用増(2022/5)

1970~74年に建てられた神戸市営下山手住宅「はもともと1号棟~5号棟」からなり、1、2号棟は2020年に解体されたが、4号棟の解体を巡ってトラブルが発生。2020年11月からの解体予定であったが、アスベストの見落としが発生。当初2億円で発注していた施工業者を契約解除して、新たな見積りでは約7.7億となった。見落としについては請負業者が指示を失念していたととも、市も調査結果の確認を認める。尚、工事は2月から開始された

ダイオキシン含む除草剤 鹿児島県内5市町の山林に6トン埋設(2022/3)

林野庁が1971年に使用を中止し全国各地に埋設したダイオキシンを含む除草剤が、鹿児島県内5市町の山林に約6トンあることが判明。全国で2番目の水準となる。豪雨災害などによる流出を懸念する自治体の声を踏まえ、同庁は埋設状況を調べる方法を検討している。

九州の建設アスベスト訴訟最高裁建材メーカー4社の敗訴確定(2022/3)

九州各地の建設現場で働いていた元作業員がアスベストを吸い込み、肺がんになったなどとして国と建材メーカーに賠償を求めた集団訴訟で、最高裁判所は双方の上告を退ける決定をし、建材メーカー4社の責任を認めた2審の判決が確定し、国とは2021年12月和解済み(3.5億賠償)である。

土壤汚染関連ニュース

2022年3月

大阪万博跡地の土壤汚染対策費778億円試算(大阪市)

大阪市は2日、2025年大阪・関西万博の閉幕後、会場跡地に大規模商業施設を建設する場合に、土壤対策費として778億円(汚染土処理480億円、地中障害物撤去29億円、液状化対策工事269億円)が必要との試算を明らかにした。市によると、人工島・夢洲ゆめしま(大阪市此花区)の万博会場約155haのうち、活用が見込まれる約80haを対象に試算。また、市はカジノを中核とする統合型リゾート(IR)誘致が実現すれば、夢洲内の建設地の土壤対策費として790億円を負担する方針を明らかにしている。万博跡地の開発事業者の選定は23年度以降で、大規模施設を建設すれば新たに市の負担が増える可能性がある。

土壤汚染関連ニュース

2022年3月

雑草活用でのファイトレメディエーション技術

土壤の重金属汚染修復に、近年はファイトレメディエーション(phytoremediation)と呼ばれる植物を活用した修復技術が注目されるようになってきている。雑草学博士の小笠原勝将氏は、重金属は分解できないことから、土壤中の重金属を植物の根に吸わせるか、あるいは植物の根圏に固定させるかとなるが、植物には重金属に耐性を示すことはもちろんのこと、汚染地の気象条件や土壌条件下でも旺盛に生育することが求められると述べている。病害虫に強いことや在来植物であることも維持管理や地域生態系を保全観点からも求められている。その要求する植物の生育地は、汚染地あるいは汚染地周辺であり、汚染地の雑草植生を詳しく調べることにより、ファイトレメディエーションの候補植物を容易に見つけ出せるとも。候補植物が生育している表土を利用することにより、大量の雑草種子や栄養繁殖器官を低コストで安定的に供給可能にもなる。雑草種子を播種するか雑草種子を含む表土を撒くだけであり、低コスト且つ長期の経過観察が可能になり、土壤汚染の修復経過を視覚化できるらしい。今後の更なる研究が俟たれる。

過去の環境リスクPressはこちらから **環境リスク.COM** <http://www.kankyorisk.com>

【発行】 アスベックス株式会社

〒194-0023 東京都町田市旭町2-7-8

[TEL]042-726-0744 [FAX]042-726-0726